

社会人対象講座 キャリアアッププログラム

Basic subject Career Up Program

広島経済大学キャリアアップ・プログラム・メールマガジン 第201号(2017.12.07発行)

このメルマガは、どなたに転送いただいても構いません。

なお、本メールが不要な方は career-up@hue.ac.jp までご連絡ください。

【お知らせ】

- 2017年度3学期の受講生を募集しております。

受講締切日は12月14日(木)となっております。

《キャリアアップ・プログラム》 <http://www.hue.ac.jp/lecture/careerup/index.html>



《カルチャー講座》 <http://www.hue.ac.jp/lecture/culture/index.html>



【目次】

・巻頭言……………広島経済大学 経済学部

経営学科 教授 広田 堅志

・3学期 キャリアアップ・プログラム、カルチャー講座のご案内

・キャリアアップ・プログラム(CP)/カルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせ

■巻頭言

広島経済大学 経済学部

経営学科

教授 広田 堅志

「付加価値貿易から見た日本の輸出競争力の変化」

20 世紀 90 年代以来、情報通信技術 (ICT, information and Communication Technology) の革新的発展や国際輸送の発達などにより、それまで一国内で完結された生産活動が、国境をまたがって行えるようになった。労働による生産コストの差異が新たな利益の源泉を創り出した。同時に、世界的な関税水準の引き下げ、国際貿易と投資環境の改善により、資本やその他の生産要素の地球規模での移動がさらに深化するようになった。これらの諸要因により、工業製品の生産工程の細分化、同一製品の異なる生産工程が異なる国・地域で完成されるといったような特徴をもつ、いわゆる国際垂直分業にもとづくグローバル・サプライ・チェーンの形成を促進した。その結果、細分化された財・サービスの生産 (提供) 工程が最適な立地・コスト水準のもとで再配置され、そこで生み出された付加価値が中間財として取引された後、最終財・サービスが生産 (提供) されるというようなグローバル・バリュー・チェーン (GVC, Global Value Chain) が構築されるようになっている。

GVC がもつ重要な特徴の一つは、工業完成品の生産工程の細分化・工程内分業、生産工程の地理的分散である。その結果、ある国で生産された部品・加工中間品 (中間財) が別の国へ輸出され、その部品・中間加工品を用いて生産された最終完成品 (最終財) がさらに別の第 3 国へ輸出されるという貿易の流れが生まれる。中間財貿易はかつてないほど急速な発展を見せ、今日の国際貿易の約 6 割が中間財貿易によるものであると言われている。従来からある貿易統計では、各生産工程で生み出された付加価値が中間財として輸出されるたびに輸出額が計上されることになる。同時に、これら中間財を輸入する国から見れば、輸入中間財を組み込んで自国の輸出財を生産しているので、純粋にその国の国内に源泉を求められる付加価値額よりも輸出額のほうが大きくなってしまふ。さらに、国内で生産して輸出した中間財が、輸出先国の輸出財の生産に用いられ、その輸出財が国内に再輸入する場合、国内で生み出された付加価値の最終消費地は海外ではなく、国内ということになる。国際貿易を取り巻く新しい世界経済環境の中で、従来からある貿易統計では、付加価値で見た貿易の正しい姿を捉えることができなくなっている。

最近の付加価値貿易アプローチにもとづく分析によれば、日本の上位製造業輸出の競争力は変化が表れている。付加価値ベースでみた産業の比較優位指数 (VARCA) について、「コンピュータ、電気・光学設備」(C30T33X) の競争力が徐々に失いつつある。2008 年以降、日中間の VARCA 指数が逆転する。当該産業はグローバルな生産ネットワークの垂直化が最も進んでいる産業である。韓国と台湾の当該産業の競争力は世界トップクラスにある。

日本は韓国、台湾に比べて、国際価値連鎖への参加度が低く、特に、後方連関参加度の低さが顕著であった。つまり、日本の「コンピュータ、電気・光学設備」産業は、韓国台湾と比べて、国際価値連鎖の後方連関の生産工程にも積極的に連なり、海外の安価で質の良い中間財を積極的に用いることで、自らの付加価値を高めるという点で後れを取り、そのことが付加価値貿易で見た比較優位を失う要因の一つとなったと考えられる。

日本の最重要産業である「輸送機械」(C34) は、VARCA 指数が 2 を超える極めて強い競争力を有している。擦り合わせが重要な産業で、日本は特に技術的に強みを持ち、部品生産に強みをもつ。しかし、2008 年以降の指数低下が顕著である。2008 年以降、「輸送機械」産業における GVC 展開が強まった。当該産業において、これまでの前方連関参加の度合いを維持しつつ、海外の良質安価な中間財の活用を拡大し、後方連関参加を同時に拡大していかなければ、付加価値貿易で測定する比較優位を失ってしまう (VARCA 指数の更なる低下) 恐れがある。「金属製品」(C28) 産業や「電気機器」(C31) 産業などについても、比較優位を失いつつあるが、韓国、中国などに追いつかれる状況にある。

日本の輸出競争力を維持、高める (国内で生み出す付加価値を高めること) ためには、海外から安価で良質な中間財を積極的に用いることで、自らの付加価値を高める生産工程に特化することが必要である。また、製造業が国内で生み出す

付加価値を高めるためにも、ビジネスサービスの付加価値を高めることが課題となろう。さらに、日本は、TPP などの GVC のゆがみを正す新しい貿易ルールの構築を主導することにより、世界全体の効率性を高めるとともに、日本の国内で生み出される付加価値を高めることが求められている。

■キャリアアップ・プログラム、カルチャー講座 3学期受講生を募集しています。

3学期の受講生も募集締め切りが、**12月14日(木)**になっております！

以下の通り、充実したプログラムを取り揃えておりますので、ぜひお申込みください！

エントリー(入門)クラス	初めてチャレンジする分野のイメージをつかむ
ベーシック(基礎)クラス	ビジネスの基本を再認識しベースをしっかりと学び直す
アドバンス(応用)クラス	ワンランク上の自分になるための応用力を身につける

キャリアアップ・プログラム

曜日	科目	講師	講義日
月曜日	実戦ビジネス中国語会話基礎	広田 堅志	1月15・22・29日 2月5・19・26日
	マーケティング演習	細井 謙一	
火曜日	日常生活を考える経済学入門	新垣 繁秀	1月16・30日 2月6・13・20・27日
	証券投資理論の基礎	得津 康義	
水曜日	実戦的広告戦略の基礎	北野 尚人	1月17・24・31日 2月7・14・21日
木曜日	現代中小企業経営論の基礎	瀬戸 正則	1月18・25日 2月1・8・15・22日
	ケースメソッドで鍛える経営構想力	山内 昌斗	
金曜日	所得税法入門	餅川 正雄	1月19・26日 2月2・9・16・23日

※講義名をクリックすると、シラバスが閲覧できます。

カルチャー講座

曜日	科目	講師	講義日
水曜日	江戸時代における「政治背景」の実態と背景	濱田 敏彦	1月17・24・31日 2月7・14・21日

※講義名をクリックすると、シラバスが閲覧できます。

【申し込み】 ホームページからお申込みください。

キャリアアップ・プログラム

<http://www.hue.ac.jp/visitors/local/procedure.html>

カルチャー講座

<http://www.hue.ac.jp/forms/culture.html>

【申込締切日】 2017年12月14日(木)

受講料など、詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.hue.ac.jp/visitors/local/careerup/index.html>

▶今年もあとわずか！師走に入り、何かと忙しい時期となりました。時の移ろいの速さに負けじと、学生たちはゼミの研究成果やプロジェクト活動などの発表会に向け、着々と準備を進めています。1年間の活動の集大成が納得いくものになるよう、思う存分準備や議論を深めてもらいたいです。

■キャリアアップ・プログラム(CP)やカルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせは下記の連絡先へご連絡ください。

〒731-0192

広島市安佐南区祇園五丁目 37-1

広島経済大学 教育・学習支援センター

【広島経済大学HP】 <http://www.hue.ac.jp/>

お問い合わせは電話番号(082)871-9345 または E-mail career-up@hue.ac.jp までどうぞ。

HUE 広島経済大学
CAREER UP PROGRAM